

2021年度学校評価

自己評価・学校関係者評価報告書

学校法人百羊学園 昭島幼稚園

1. 本園の特色と教育目標

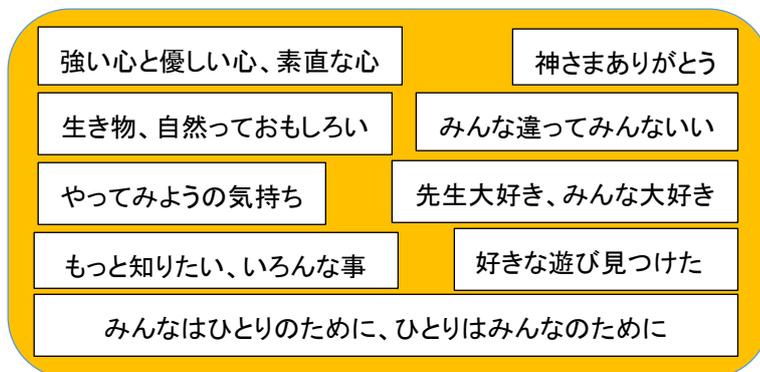
▶キリスト教的な愛に基づく保育の実践

- ・心が育つ保育
- ・個性を認め合う仲間づくり
- ・平和で民主的な生活環境

▶総合的な学びの実践

- ・ゆたかな直接体験
- ・個の充実と幅広い体験

▶家庭と共に歩む保育の実践



目には見えない子どもの心を育みます

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

▶「新型コロナウイルス感染防止」と「保育の充実」との両立をはかる

- ・感染防止対策を講じながらも、経験や出会いの機会を増やし、園児の世界が広げられるよう努める
- ・家庭とのつながりを大切にして、家庭に保育を届けられるよう努める

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	評価	取り組みの様子
1 新型コロナウイルスへの対応や対策を万全に講じる	A	感染防止のための必要な備品やルールなどを教職員で話し合い、共通の認識をもって対応することができた。また、感染防止教育としてマスクや手洗い、黙食などの大切さを子どもたちと考え、しっかりと実践することができた。
2 文化、芸術、地域社会、安全教育、道徳教育、性教育など、幼児期に有益な活動や経験を提供する機会を増やす	A	感染防止対策を講じた上で音楽鑑賞会やいのちの話（幼児期から学ぶ性教育）を実施することができた。社会的な感染状況の悪化により観劇会は中止となったが、充実した時間を提供する事ができた。
3 教職員が園の教育目標を十分に理解し保育にあたる	A	研修会や教師会を定期的に行い、園の教育目標や保育の特色、実際の取り組みなどへの理解を深めることができた。感染防止のため保育活動を制限せざるを得ない状況もあったが、教職員間でよくシェアし臨むことができた

評価（A：十分に成果があった B:成果があった C:少し課題を残した D:成果がなかった）

4. 総合的な評価結果

評価	理由
A	今年度も感染防止と保育の充実の両立という難しいテーマを与えられた一年となったが、家庭の協力や教職員間での情報共有を十分に行い安定した保育を提供することができた。家庭とのコミュニケーションについても、毎日の送り迎え時の直接対話や個人面談、定期的な父母会などを通して十分にとることができ、信頼関係を構築することができた。

評価（A：十分に成果があった B:成果があった C:少し課題を残した D:成果がなかった）

5. 今後取り組むべき課題、次年度への展望

課題・展望		具体的な取り組みなど
1	教育カリキュラムの充実	各学年において現状のカリキュラムを見直し、年齢や実情に応じたカリキュラムを実行できるよう、また更に充実した保育が展開できるよう努める
2	子育て支援の拡充	子育てにあたる家庭の実情に寄り添い、園が子育て支援として協力できることを模索する。 <ul style="list-style-type: none"> ・長期休み（夏休み、冬休み、春休み）の支援の在り方検討 ・子育てひろば、子育て相談の充実、関連団体との協働
3	教職員研修	安心、安全な保育、質の高い保育が提供できるよう、教職員の研修を充実させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯、防災に向けた訓練や非常時のシミュレーション確認 ・救急法やAED、エピペン講習 ・音楽、芸術、環境教育、リクリエーション等の技術を高める ・幼児理解や発達、障がい等の理解を深める ・幼児教育の意義と実践についての見識を深める

6. 学校関係者評価（評価：昭島幼稚園父母会幹事会 / 学校法人百羊学園評議員会）

感染状況に応じて園生活の警戒レベルを判断し、家庭にも情報を共有してくれたことで安心して通わせることができた。新型コロナウイルス陽性者が出た時にもすぐに対応してくれたので混乱はなかった。父母会を通して子どもの様子がよく伝わってきて安心できた。日常生活でも自粛ばかりなので、音楽鑑賞会を実施してくれたことは本当にありがたかった。これからも（もちろん感染防止に気をつけた上で）充実した園活動を行っていただきたい。（父母会幹事会）

感染防止と保育の充実という難しい判断の中、子ども達のことを第一に考え、きめ細やかな保育が行えていると思う。家庭からの声が直接届くことが昭島幼稚園のメリットであるので、これからも家庭からの声によく耳を傾けて、幼稚園が独りよがりにならないよう留意して保育を進めていってほしい。

今後もしばらくはコロナ禍での保育が強いられると思うが、これからも昭島幼稚園の保育精神を大切に歩んでほしい。（学校法人百羊学園評議員会）